

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：保育実習Ⅰ（保育所） 英語表記：PracticeⅠ（Childcare） ナンバリング：2701		単位数：2単位 （10日間）実習	担当教員名：加藤房江、 浅野瞳 担当形態：複数
科目／系列		／保育実習	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／保育実習Ⅰ	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育所等の役割や機能を具体的に理解し、子どもの観察や関わりを通して、子どもへの理解を深めることができる。 2. 既習の学習内容を踏まえ子どもの保育・保護者の支援について総合的に理解できる。 3. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に学び、保育士の業務内容や職業倫理について理解できる。			
【授業の概要】 本授業は、実習生として遵守すべき義務及び責任について自覚し、意欲的に保育所実習に臨むための授業である。授業で学んだことを基礎として具体的に保育所の社会的役割をはじめ、保育者の役割、子どもの実態などについて理解し、保育実践を行うことが重要である。子どもの保育や保護者の支援、保育の計画・観察・記録等について実践的に理解を深める。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 保育所実習（前半） 実習は2年次の7月に協力保育所にて10日間行う。 前半実習においては、観察型実習及び参加型実習を中心に行う。 観察型実習 保育実践の現場や保育の様子を観察することにより、保育所の保育方針や一日の流れなどを知る。また、保育者と子どもとの関わりを通して保育者の社会的役割や子どもとの接し方を学ぶ。 参加型実習 保育士の補助として、保育の一部に参加したり、担当したりすることで、子どもの生活と保育士の援助や関わり、保育の展開を理解する。子どもの発達過程を理解し、援助や関わりを学ぶ。 全体的な計画に基づく指導計画の理解、記録の省察・自己評価を行い、保育方針や保育計画に基づく日々の保育活動との関連を理解する。 専門職としての保育士の業務内容、職員間の役割や連携、保育士の役割と職業倫理を具体的に学ぶ。		【授業時間外の学習】 （各1～2時間程度） ・事前に実習先の保育所に関する情報を集める。 ・実習先の保育所について、保育方針等の理解を深める。 ・発達に合わせた保育技術を高めて、実践できるように十分準備をしておく。 ・実習を行なったクラスの子どもの発達の様子や健康管理、安全対策、食育の取り組み等、指針や教科書をみて理解を深めておく。	

【授業の方法】 協力保育所にての実習。実習先からの評価を基に個別面談を行いフィードバックする。	
【テキスト】 『実習の手引き』埼玉純真短期大学	
【参考書・参考資料等】 実習先にて配布されるしおりや実習の心得、楽譜等。 『保育所保育指針』（最新版）『幼稚園教育要領』（最新版） 『幼保連携型認定こども園・教育保育要領』（最新版） 『見る・考える・創り出す「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」』CHS子育て文化研究所 迫田圭子ら 萌文書林	
【学生に対する評価】 実習園からの評価(60%)、実習日誌・事前事後指導の取り組み(40%)から総合的に評価	
【履修上の注意】 ・「 保育実習指導Ⅰ 」を必ず履修すること。 ・実習後、速やかに実習日誌の記入を丁寧に行い、次の日の朝には、実習園に日誌を提出すること。 ・保育士の役割を理解し、主体的に授業に臨み、活動を楽しむこと。	
実務経験の有無：有	実務経験：加藤：元幼稚園教諭、元保育士、元主任保育士 浅野：元施設指導員、社会福祉士
【実務経験を生かした教育内容】 保育者としての経験を活かし、実習園からの相談等がある場合は速やかに対応する。	